

# 鳥類の生息地保全について

2009年11月22日 ふれあい懇談会 鈴木茂也

## 鳥類の特性を考えると

- 鳥類は移動能力が高い
- 行動（目的）によって環境の使い分けをする
- 季節による使い分けも  
(渡りも関連)

○ →行動を阻害しない環境保全が必要

## 鳥類の行動パターンは

---

- ①採食（食物の摂取）
- ②休息（多くの場合は食物の消化を行う）
- ③就埒（休息を兼ねることも多い）
- ④繁殖  
（上記3項目が満たされている事が条件）

- 行動と環境利用のパターンは種の習性によって異なる

# コアジサシの場合 1



- 生息期間

日本（4月～10月）

- 集団性

百羽～数百羽の集団を形成する

①採食

ウグイ、オイカワ、アユなどを捕食

→豊富な餌資源が必要

※大集団を養えるか？

※容易に捕食できることが条件

## コアジサシの場合 2

### ④繁殖

広大な砂礫地が必要

条件として

植物の少ないこと

広いこと

人や犬などの侵入が少ないこと



→相模川では近年渡来数、繁殖数が少ない

# コアジサシの雛と卵

(川崎市における繁殖調査で)



# 安定したコアジサシ繁殖地の広さは

---

- 東京湾での例

- ① 2006年 川崎市の工場跡地

- 広さ：

- 生息数：

- 採食地：多摩川河口

- ② 2009年 鶴見区の倉庫跡地

- 広さ：300m×500mの一部を利用

- 生息数：推定800羽

- 採食地：鶴見川河口＋港湾？

-

# 2006年川崎市の繁殖地



# 河川における重要な鳥類の生息環境

---

- ① 砂礫地  
コアジサシやチドリ類の繁殖
- ② 抽水植物群落（アシやガマの生える湿地）  
バン、オオヨシキリ、ヨシゴイなどの生息
- ③ 草地  
ホオジロ、セッカ、ヒバリなどの生息地
- ④ 干潟  
シギ類、チドリ類などの採食
- ⑤ 河畔林  
森林性鳥類の生息、サギ類の休息・繁殖



# 相模川の環境保全で重要ことは？

---

## ①河川本来の自然環境の保全

- 砂礫地の再生
- 干潟の再生・草地の確保

## ②現状を加味しての環境創造

- 取水堰の上流部等での抽水植物群落再生

## ③他の地域で減少した環境の保全

- 河畔林・草地・抽水植物群落